太田クラブ 代表 白石さと子 印

会派行政視察報告書

- 1 期日 令和1年12日20日(金)の1日間
- 2 視察地 八ッ場ダム(群馬県)
- 3 視察事項

八ッ場ダムの経緯と現状について

4 参加者 10 名

白石さと子 町田正行 木村康夫 正田恭子 斎藤光男 渡辺謙一郎 大川敬道 中村和正 八長孝之 木村浩明

5 視察概要

八ッ場ダムの建設事業の経緯

昭和22年 カスリーン台風により利根川の堤防が決壊

昭和27年 八ッ場ダムの調査に着手

昭和 44 年 ダム説明会が開かれ生活再建相談所も開設 移転地探しは難航

昭和 55 年 群馬県が長野原町に「生活再建案」を吾妻町に「振興対策案」を提示

平成4年 長野原町と八ッ場ダム建設事業に係る基本協定締結

平成7年 吾妻町と八ッ場ダム建設事業に係る基本協定締結

平成27年 ダム本体左岸で発破による掘削工事開始

平成28年 ダム本体のコンクリート打設開始

平成 29 年 八ッ場ダム定礎式を実施

令和元年 ダム本体のコンクリート打設完了 試験かん水開始

八ッ場ダム建設事業の進捗状況

	全体	進捗率
用地取得	456ヘクタール	9 7 %
家屋移転	470世帯	1 0 0 %
付替鉄道	10. 4キロメートル	1 0 0 %
付替国道	10.8キロメートル	1 0 0 %
付替県道	12キロメートル	1 0 0 %
(

(令和元年9月末時点)

ダム及び貯水池諸元

[ダム形式] 重力式コンクリートダム

[堤 高] 116.0メートル(利根川水系ダムで8位)

[堤頂長] 290.8メートル

[堤体積] 約100万立方メートル

[流域面積] 711.4平方キロメートル(利根川水系ダムで1位)

[総貯水容量] 1億750万立方メートル(利根川水系ダムで3位)

[かん水面積] 約3平方キロメートル

八ッ場ダム建設の目的

① 洪水調節

八ッ場ダムは、ダム地点ピーク流量時において毎秒 3,000 立方メートルの洪水を ダム下流には毎秒 200 立方メートルの放流になるよう調節します。

② 新規都市用水の供給

群馬県及び下流都県の新規都市用水として、最大、毎秒 22, 209 立方メートルの供給を可能とします。

- 1. 水道用水(最大毎秒 21.389 立方メートル) 群馬県、藤岡市、埼玉県、東京都、千葉県、北千葉広域水道企業団 印旛郡市広域市町村圏事業組合、茨城県
- 2. 工業用水(最大毎秒0.82立方メートル) 群馬県、千葉県

③ 流量の正常な機能の維持

ダム下流に位置する名勝吾妻峡の景観等を保全するための流量(毎秒2.4立方メートル)を確保し、吾妻川の流況の改善を図ります。

④ 発電

群馬県によりダム下流に新設される八ッ場発電所において、最大出力 1 1, 7 0 0 キロワットの発電を行います。

所感

本年の台風による洪水被害は、太田市においても甚大なものであった。せめてもの救いは 隣接する利根川の堤防が決壊せず利根川からの氾濫がなかったことだ。それは、利根川上流 部に位置し、流域面積が利根川水系で1位、貯水容量が3位の八ッ場ダムがほぼ完成し洪水 調節の機能が働いたことが大きく寄与したと考えられる。 地震と違い台風被害は一週間 ほど前には予想出来、事前放水などの対策もとれる。

そこで八ッ場ダムの現状と経緯を調査するため会派として行政視察を行った。

まず、現在完成しつつあるこのダムの計画、調査が始まったのが昭和27年だったことに驚かされる。実に長い年月がたっている。 住民の反対があって実行に移せなかったということであった。 ダム湖に沈む住居の代替えは完了しており、代替えの鉄道路線や駅、学校や郵便局なども新しく移転建設されている。国道県道も新しく整備され、八ッ場ダム周辺のみならずこの道を通ってゆく草津方面へのアクセスも便利になった。

このダムは多目的ダムということで上記のように4つの機能がある。 洪水調節、都市用水の供給、発電は知っていたが、下流を流れる吾妻峡へ一定の流量を流し景観等を保全することは知らなかった。雨が少ないときに下流に一定の量の水を放流する機能もあるのだ。

新しく建設されたダムのためなるほどと思った機能もあった。 選択取水設備がその一つである。ダム湖の任意の水深から取水が出来る様になり目的に合った水が使えるようになった。仕組みは良く出来ており新しいダムであることを感じる。

当初の建設計画より800メートルほど上流にダムの堤は建設された。景勝である吾妻峡を残すためだ。 おかげで吾妻峡の4分の3は残されたそうである。 ダムの堤の端には100メートルほどもあるエレベーターが設置された。一般の人がこれを使ってダムの上から吾妻峡のある下へ降りてこられる様になる予定です。ダムを見学した人がその直下に隣接する吾妻峡を見学し、その逆も簡単にできるのは素晴らしいコラボレーションである。

移転した温泉旅館はダム湖を見渡せる位置に再建され、今後、水陸両用バスを走らせるレクリエーションも計画している。道の駅やダム資料館も整備されこの地域全体として一大 観光スポットになる要素を持っていると感じる。ダムカードなるものも配られ、これを提示 すると道の駅等で特別価格が受けられるものもある。近年ダムマニアに代表されるように ダムが注目され、見学者が増えているという。

移転によって悲観的な意見も多く出ていたようですが、行政と地域の人たちが知恵を絞って多目的なこのダムを作り上げている。最初からこの再建案が提示されていたなら住民理解が得られもっと早く完成していたであろう。今回の視察は、洪水被害を防ぐことやその他、多目的なダムの機能を再確認することが出来たが、地域の再建にとっても希望を感じさせる内容であった。









